



システム管理、アラーム、および ネットワーク クロックのケーブル接続

マルチシェルフ システムは、システム管理接続用に複数のオプションをサポートしています。また、外部アラームをトリガーする接続と光ケーブルのクロックを管理する接続を提供しています。システムを設定し、システムが動作可能な状態になる前に、コンソール ポート接続を設定する必要があります。外部アラームとネットワーク クロックの機能は、常時ケーブル接続できます。

この章では、次のケーブル接続オプションについて説明します。

- [コンソール ポートのケーブル接続 \(p.2-2\)](#)
- [補助ポートのケーブル接続 \(p.2-2\)](#)
- [管理イーサネット ポートのケーブル接続 \(p.2-3\)](#)
- [アラーム モジュールのアラームアウト ケーブル接続 \(p.2-3\)](#)
- [次の作業 \(p.2-3\)](#)



(注)

この章で説明するケーブル接続の一部はルータを制御する場合に使用しますが、制御ネットワークは個別のケーブル接続コンポーネントであり、その内容は第 3 章「Cisco Catalyst スイッチを使用した制御ネットワークのケーブル接続」または第 4 章「22 ポート SCGE カードを使用した制御ネットワークのケーブル接続」に記載されています。

コンソール ポートのケーブル接続

Cisco Catalyst 6509 スイッチまたは 22 ポート SCGE カードと連動する RP の初期設定は、コンソール ポートを介して行われます。これらのデバイスにはイーサネット ポートがありますが、設定を完了するまでイーサネット ポートは使用できません。FCC の SCGE カード (2 ポートまたは 22 ポート) にはコンソール ポートがありますが、RP 上にマルチシェルフ システムが設定されているため、一般的に SCGE カード (2 ポートまたは 22 ポート) のコンソール ポートはトラブルシューティングの際にのみ使用されます。

マルチシェルフ システム内の任意のコンソール ポートに接続するには、マルチシェルフ システムのコンポーネントに接続される側で、RJ-45 コネクタ付きロールオーバー ケーブルを使用します。通常、ロールオーバー ケーブルの反対側も RJ-45 コネクタを使用します。ロールオーバー ケーブルの反対側は、端末、ターミナル エミュレーション ソフトウェアを実行するコンピュータ、またはターミナル サーバに接続できます。ロールオーバー ケーブルの RJ-45 コネクタを各種のシリアル ポートに接続する場合に、アダプタを利用できます。ロールオーバー ケーブルとコネクタの詳細については、次の Web ページを参照してください。

http://www.cisco.com/univercd/cc/td/doc/product/lan/cat6000/6000hw/6000_ins/0bcabcon.htm

RP 上のコンソール ポートへの接続方法については、『Cisco IOS XR Getting Started Guide』を参照してください。

Cisco Catalyst 6509 スイッチのコンソール ポートへの接続方法については、製品のマニュアルを参照してください。

補助ポートのケーブル接続

補助ポートは、モデムを介したリモート接続用に RP と SCGE (2 ポートまたは 22 ポート) カードに搭載されています。RP 補助ポートは、マルチシェルフ システムを設定する場合に使用できます。コンソール ポートと同様、SCGE 補助ポートは通常、トラブルシューティングの際に使用されます。

補助ポートへの一般的な接続では、各側で RJ-45 コネクタ付きシリアル ケーブルを使用します。ロールオーバー ケーブルと同様、遠端の RJ-45 コネクタを各種のシリアル ポート タイプに接続する場合に、アダプタを利用できます。『Cisco IOS XR Getting Started Guide』は、RP 補助ポートがモデムを介してどのようにリモート ターミナルに接続されるかを示した図を提供します。

管理イーサネット ポートのケーブル接続

各 RP は、イーサネット ネットワークを介して RP を管理する場合に使用できる管理イーサネット ポートを搭載しています。このポートは、マルチシェルフ システム内の RP にソフトウェアをダウンロードしたり、分析用またはバックアップ保存用にファイルをリモート サーバに転送したりする場合にも使用できます。

管理イーサネット ポートへの一般的な接続では、各側で RJ-45 コネクタ付きイーサネット ケーブルを使用します。ケーブルの反対側は、通常マルチシェルフ システムとネットワーク間の接続を提供するイーサネット スイッチ、ハブ、またはルータに接続されます。ここで、システム管理を行う必要が生じます。

RP 上の管理イーサネット ポートへの接続方法については、『Cisco IOS XR Getting Started Guide』を参照してください。

アラーム モジュールのアラームアウト ケーブル接続

LCC と FCC の AC または DC の各電源シェルフには、電源シェルフのステータスを監視し、システム アラームの外部インターフェイスを提供するアラーム モジュールが含まれます。同じアラーム モジュールが、すべての電源シェルフで使用されます。アラーム モジュール接続の詳細については、次のマニュアルを参照してください。

- 『Cisco CRS-1 Carrier Routing System Multishelf System Description』
- 『Cisco CRS-1 Carrier Routing System 16-Slot Line Card Chassis System Description』

次の作業

この章に記載されたケーブル接続を完了したら、接続内容を記録して、システムを設定する担当者にその記録内容を渡してください。たとえば、ネットワークからコンソール ポートにアクセスできるように、コンソール ポートをターミナル サーバにケーブル接続した場合には、コンソール ポートを使用する前に、ターミナル サーバの IP アドレスと対応するポート番号が必要になります。

■ 次の作業